

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202486		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム アダージョ	ユニット名	1F
所在地	静岡県駿河区中田4丁目6-1		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosvoCd=2274202486-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1人1人の利用者様に対して観察力があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話の内容、食事内容・少しの変化も記録に残して職員で共有しています。 ・その人の状態に合わせた食事形態にしています。 ・水分は声掛けをして促し、水分量も職員が把握し適切な摂取を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念「ゆるやかな そよ風を 中田の町に 吹かせよう」に沿って地域とのつきあいを大事にし、交流を深めている。町の夏祭には駐車場への出で参加し、公民館で開催されるS型サービスや町の防災訓練にも参加している。さらには、近隣店舗への買物や保育園児の来訪もある。運営推進会議には町内会長や民生委員・地域包括支援センターに加え、市介護保険課も年1回の参加を目指している。職員は3年以上の勤続者が多く、管理者の熱心な指導もあり全員が情報共有を深めている。一人ひとりに寄り添う介護により、利用者は穏やかな表情でゆったりと過ごしている。隣接する在宅療養支援診療所が協力医であり、24時間365日対応の医療体制となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との触れ合いを作る様に出外や散歩をしています。顔を覚えてくれて挨拶をしてくれる方もいます。	理念「ゆるやかな そよ風を 中田の町に吹かせよう」に追加の言葉を添えて、玄関と1階・2階の事務室に掲示している。勉強会でも話題とし、機会ある毎に職員間の共有を深め、地域との一層の交流を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り(町内夏祭りに参加)やS型デイサービスの参加、近隣のスーパー等への買い物、公園の散歩など行っています	地域とのつきあいを大事にし、町内会に加入して回覧の回付もある。町の夏祭には駐車場への出店で参加し、公民館で開催のS型サービスや町の防災訓練にも参加している。近隣店舗への買い物や保育園児の来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内で行う避難訓練などは地域住民に協力をお願いしていくなどして、理解を深めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議であがった意見は貴重なものとして、現場に伝え改善できる様努めています。	町内会長や民生委員・地域包括支援センター等が参加して隔月で開催し、市介護保険課も年1回の参加を目指している。年2回は家族会を兼ねており、6~8人の家族が参加している。民生委員の提案でS型サービスへの参加が開始された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者個人について、法律的な事などわからない事は相談、確認をするように努めています	介護保険課には運営推進会議報告を郵送し、事故報告の持参や電話での相談を行っている。生活支援課には書類を持参して相談に出向き、年1回は来訪もある。介護相談員を受け入れており、年1回は運営推進会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ、3か月ごとな会議開催、またホーム内研修を年3回計画行っています	身体拘束廃止委員会を年4回開催して職員同士で話し合い、指針に基づいた研修を年3回実施している。たとえ職員間の意思疎通が円滑でない状況であっても、介護の妨げにならないよう常に留意している。玄関の施錠は夜間のみ実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に至る事が内容に、職員同士声掛けをしたり、会議などで各自のケアの悩みを話し合うなどし、ストレス軽減に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会は開けていませんが、利用者様に対しては必要と思われる方には活用をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をみながら説明をし、後日でも疑問点等が合った時は、再度説明をさせて頂く旨は伝えています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、「家族会」を開きその場では、各ご家族が発言出来る様な環境を作っています。また、面会時には声を掛けさせて頂き、話しやすい様努めています	家族の面会時には必ず話す機会を設け、重要な案件は管理者かリーダーが対応し介護記録に残している。遠方の家族にも年2～3回の来訪時に面談し、来訪の少ない家族には電話で連絡している。家族会でも各家族と話をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議で上がった意見は、管理者会議等で話しが出来ています	2ヶ月に1回開催するホーム会議や毎月開催するユニット会議では、全員が意見を出せるように指名する等で工夫している。書記も持ち回りで全員が担当している。職員の見により、ポスターの制作や全員配布のTシャツ作りが実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度ができました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価制度ができました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	クリニック主催の勉強会に参加、各事業所合同での勉強会等開催し、交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・モニタリングを行いつつ、いち早く信頼関係を築ける様にしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等は、面会時、プランの説明時等に聞き、職員で共有しお互いの信頼関係を得る様にしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に話を聞き、必要なサービスが提供出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に生活上の家事などを一緒にに行い関係を築く様にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご本人の状況を報告しながら、協力して頂ける所はお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ケアプランに取り込むなどし、関係継続に努めています	毎月1回職員同伴で近隣の図書館に行き、本の予約をしている利用者が3人いる。法事や墓参りに行く人や兄弟会や教会の信者仲間が来訪する利用者もいる。それぞれについて関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人一人の性格や認知レベルを判断し、職員が間に入るなどして関わりを作っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族等に、夏祭りなどの案内を継続して送り参加して頂くなど努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向がとれる方は優先順位を考慮し、とれない方は、カンファレンスなどで話し合い検討しています	日常生活の中で一人ひとりの思いや意向を聞き取り、ケース記録を作成し支援日誌に記録している。聞き取れない利用者場合には、家族の意見や本人の立場に立って意見を述べている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で情報を得る様に努めています また、入居されてからのアセスメントで把握出来る様にしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご様子を記録し、また申し送りなどで職員が共有するようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、職員で必要なケア等を検討し作成しています	介護サービス計画(1)(2)を作成しモニタリングを行い、カンファレンスを繰り返しながら半年または1年と定期的に見直している。見直しの際には、毎回家族から同意を得ている。状況に応じた意向の変化を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容、気づいたことなど細かく記入し、職員間で情報共有出来る様にし、カンファレンス等で検討しプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で話し合い、案を出し合って考える様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型ディサービス、商店、図書館、近隣住民等の協力を得ながら、支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を聞きクリニックと契約しています。24時間365日対応の体制の元、適切な医療が受けられるように支援しています また、ご入居前からのかかりつけ医にかかっている方もいます	かかりつけ医の継続は自由である。現在は、利用者全員が事業所の隣にある24時間365日対応のクリニックを受診している。適切な医療が受けられる体制で歯科や整形外科クリニックなども近隣にあり、恵まれた環境である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事、日ごろの状況は報告し、看護師に相談しアドバイスをもらいながら行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にフェイスシート等で利用者様の情報提供をし、ご本人、ご家族の意向を聞きながら病院関係者と情報交換出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態を診ながら主治医に相談し、ご家族との話し合いの時間をつくり行っています。	家族には身体機能が低下した時点で丁寧に説明して、契約書に同意をいただいている。また、家族の意向で部屋に冷蔵庫を置いたり、食事が食べられなくなった時には、食べられるような工夫をして提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内、クリニック。会社全体の勉強会を定期的に行い、身につくようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、職員が体で覚える様に努めています。年1回地域の訓練に参加。消防署参加の元訓練も行っています。	災害訓練や消火器訓練など、実践で役に立つことを丁寧にやっている。災害防災備品があり、水や備品は数日分確保している。夜間を想定した訓練は行っていない。	地域の方々との交流が災害対策につながることから、今後は地域との協力体制を築いていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは意識し勉強会も行っています。お互いに注意しあえる環境作りに努めています	プライバシー保護に関するマニュアルがある。個人情報保護の観点から、個人情報の書類は整理して鍵のかかる場所で管理している。利用者への声掛けなどについて、定期的に勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選択出来る様な支援方法を心掛けています。 月1回、介護相談員が来た時は、ゆっくり話が出来ることがあり、介護相談員と情報共有しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人に確認をしてから希望に添える様に支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が選択出来る様に支援しています。 起床時の整容等の支援は行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に適した物を行えるようにしています。ご自分で片づけられる方は行って頂いています。	献立表は職員が当番制で作成し、前食を参考に栄養バランスに配慮している。利用者の体調を考慮し、散歩を兼ねて買い物に出かけたり、食事の準備や調理・片付けをしたりとその時できることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し把握しています。 飲み物の好みはその方に合わせ提供しています できる事はご本人にして頂ける様に促しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂いています。支援する方もいます。 必要と思われる方には、歯科衛生士による定期的な口腔ケアを行い、職員もアドバイスをもらい支援に繋がっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認しながら、リハビリパンツなど下着を使い分けています。 日中はトイレでの排泄を基本としています	夜間帯で一部リハビリパンツを使用する場合がありますが、日中は利用者全員がトイレで排泄している。便通が良くなるように、定期的な訪問販売の乳酸菌飲料を購入する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事の提供を心掛けています。 毎日15時に体操の時間を提供し体を動かしています。毎夕食事はヨーグルトを提供するなど努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴が出来る様に職員で把握していますが、その都度ご本人に確認し承諾を得ています	1週間に2～3回、気持ち良く楽しく入浴できることを目標に入浴介助の支援を行っている。入浴で満足して、その日1日を「良かった」と思ってもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調をみて日中臥床時間を提供している。 その方の習慣の把握に努め、電気も暗くするか、豆電球を付けるか考えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された理由などは、記録・申し送りで共有し、記録しながら変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、好みからその方に合った役割等をプランにのせ張り合いに繋がる様に支援している。 嗜好品も定期的に買い物ができる機会を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候の良い時は近所の公園に散歩に出られるように努めています。 ご家族の協力のもと、外出している方もいます	日常的な外出支援として、図書館に出かけたりスーパーマーケットで買い物をしたりしている。天候の良い日には、ベランダで外気浴をすることが多い。町内の夏祭りでは「じゃんけんゲーム」を行い、地域の人と一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の買物時は、支払いをして頂くように声掛けをし、出来ない所を支援するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的にはがきが届く方もいます。 ご家族了解のもと、電話を掛ける方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス・端午の節句・ひな祭り等玄関ホールに飾っています。 排泄のにおいがしない様に、その都度掃除に努めています 夏は、玄関は網戸にして開放感がある様にしています	共有空間は、台所から利用者や職員全体が見えるようになっている。動物の絵のカレンダーや季節に合わせた利用者の作品を玄関ホールに展示している。清潔感があり、全体的にシンプルで落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席だけではなく、ソファに座ったり、窓から外を見たり、自室で過ごす等、ご自分で移動が出来る方は自由に移動しています 和室で休む方もいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の延長で過ごせる様に、ご家族にも相談しながら工夫しています	持ち込みに制限はなく、利用者は思い思いの物を居室に置いている。家族写真を飾ったり、読書が趣味で、毎週4~5冊の本を図書館で借りることを楽しんでいる利用者が3人いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレ等目印などでわかる様に工夫しています 夜間の照明にも気を付けています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202486		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム アダージョ	ユニット名	2F
所在地	静岡県駿河区中田4丁目6-1		
自己評価作成日	平成30年9月28日	評価結果市町村受理日	平成30年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202486-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・町内の行事 夏祭りや防災訓練に参加し、地域密着に努めている ・利用者様 それぞれのペースに合わせて支援している ・会社の信条を入れたTシャツをホームで作り、会社の一員としての意識を今まで以上に持ち仕事に取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	S型ディサービス・防災訓練に参加している 町内の夏祭りへの参加が定着してきた	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	S型ディサービス・防災訓練に参加している 近くの店舗で買い物し、店員とも顔見知りになっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り・S型ディサービスなどに参加し、近隣の方とご利用者と交流がもてている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごと開催し、ホーム内の報告をしながら意見が聞けている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者個人について、法律的な事などわからない事は相談、確認をするように努めています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ、3か月ごとな会議開催、またホーム内研修を年3回計画し行っています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に至る事が内容に、職員同士声掛けをしたり、会議などで各自のケアの悩みを話し合うなどし、ストレス軽減に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会は開けていませんが、利用者様に対しては必要と思われる方には活用をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をみながら説明をし、後日でも疑問点等が合った時は、再度説明をさせて頂く旨は伝えています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、「家族会」を開きその場では、各ご家族が発言出来る様な環境を作っています。また、面会時には声を掛けさせて頂き、話しやすい様努めています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議で上がった意見は、管理者会議等で話しが出来ます		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度ができました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価制度ができました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	クリニック主催の勉強会に参加、各事業所合同での勉強会等開催し、交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・モニタリングを行いつつ、いち早く信頼関係を築ける様にしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等は、面会時、プランの説明時等に聞き、職員で共有しお互いの信頼関係を得る様にしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に話を聞き、必要なサービスが提供出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に生活上の家事などを一緒に行い関係を築く様にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご本人の状況を報告しながら、協力して頂ける所はお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ケアプランに取り込むなどし、関係継続に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人一人の性格や認知レベルを判断し、職員が間に入るなどして関わりを作っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族等に、夏祭りなどの案内を継続して送り参加して頂くなどし努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しが出来る方は聞き把握するよう努めています 聞き取れない方は、ご家族から聞いたり、生活歴を踏まえて検討しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で情報を得る様に努めています また、入居されてからのアセスメントで把握出来る様にしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご様子を記録し、また申し送りなどで職員が共有するようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、職員で必要なケア等を検討し作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容、気づいたことなど細かく記入し、職員間で情報共有出来る様にし、カンファレンス等で検討しプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で話し合い、案を出し合って考える様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	S型ディサービス、商店、図書館、近隣住民等の協力を得ながら、支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を聞きクリニックと契約しています。24時間365日対応の体制の元、適切な医療が受けられるように支援しています また、ご入居前からのかかりつけ医にかかっている方もいます		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事、日ごろの状況は報告し、看護師に相談しアドバイスをもらいながら行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にフェイスシート等で利用者様の情報提供をし、ご本人、ご家族の意向を聞きながら病院関係者と情報交換出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態を診ながら主治医に相談し、ご家族との話し合いの時間をつくり行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内、クリニック。会社全体の勉強会を定期的に行い、身につくようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、職員が体で覚える様に努めています。年1回地域の訓練に参加。消防署参加の元訓練も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訴えは、職員全員が共有しているが、内容によっては直接聞いた職員以外は、知らないふりをしプライバシーを損なわない様になっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服、食べ物など身のまわりの事はなるべく自分で決めて頂く様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の話を聞き、出来るだけ添える様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしている方もいる。美容院もご本人の好みの店に行く方もいる。 男性の髭剃りは声を掛け支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューのリクエストを聞いている その方々でできる事(野菜切り、漬物)など一緒に行っている 下膳、食器拭きなど行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し把握しています。 飲み物の好みはその方に合わせ提供しています できる事はご本人にして頂ける様に促しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室で磨く人が多い為、一人一人の確認はとれていない 必要時に歯科受診したり、歯科衛生士による口腔ケアを定期的に行っている方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの排泄を基本にしている 声を掛け誘導している レベル低下、体調不良により、リハビリパンツ、パッドを使う方はいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事の提供を心掛けています。 毎日15時に体操の時間を提供し体を動かしています。毎夕食事はヨーグルトを提供するなど努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴が出来る様に職員で把握していますが、その都度ご本人に確認し承諾を得ています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めていない 徐々に、照明を暗くするなどの工夫はしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された理由などは、記録・申し送りで共有し、記録しながら変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、好みからその方に合った役割等をプランにのせ張り合いに繋がる様に支援している。 嗜好品も定期的買い物が出来る機会を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候の良い時は近所の公園に散歩に出られるように努めています。 ご家族の協力のもと、外出している方もいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の買物時は、支払いをして頂くように声掛けをし、出来ない所を支援するようにしています。ご家族と相談し、ご自分である程度の額を持っている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的にはがきが届く方もいます。ご家族了解のもと、電話を掛ける方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス・端午の節句・ひな祭り等玄関ホールに飾っています。 排泄のにおいがしない様に、その都度掃除に努めています 夏は、玄関は網戸にして開放感がある様にしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席だけではなく、ソファーに座ったり、窓から外を見たり、自室で過ごす等、ご自分で移動が出来る方は自由に移動しています 和室で休む方もいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の延長で過ごせる様に、ご家族にも相談しながら工夫しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子に自分で移乗出来る方は、ベットと車椅子の位置を印を定位置に置く様にしている ご本人のADLにあわせて家具の配置を変える事もある		